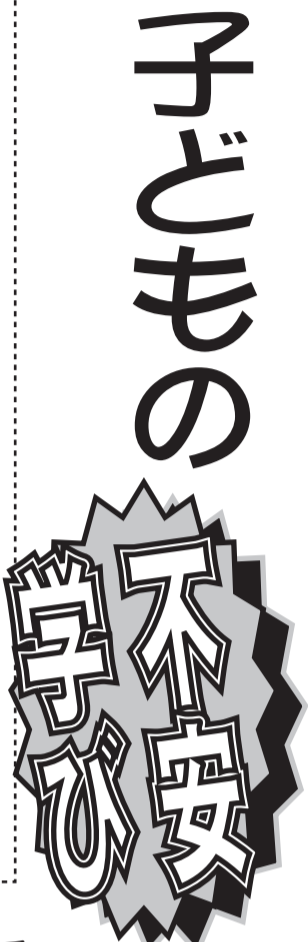


学校での感染防止

教室でも、ソーシャルディスタンスを確保して



子どもたちの不安に寄り添って先生を増やして

2月末からほとんどの期間が一斉休校となった学校現場。6月になって学校は再開されましたが、感染防止や子どもたちの心のケア、つぶれた授業時間をどうするかなど、課題が山積みになっています。村上加さしげ議員は、6月議会の総務文教常任委員会で、この問題を取り上げました。

学校では「三密」は避けられない

「三密を避けることは小学校では無理でした。体を動かしたい、友達と話したい、当たり前のことなので・・限界でした。」給食は前を見て教師が配膳する。掃除のふき掃除はやめる。座席は離し向かい合わないようにする。現場では先生方が疲弊してしました。先生たちの悲痛な声が寄せられています。

子どものストレスにどう向き合うか

子どもたちは、新型コロナウイルスで大変なストレスをかかえています。また、休校中は課題も出ていましたが、すべての子どもがきちんとこなせていたわけではありません。貧困の広がりや、家庭の教育格差が広がっているからです。

そんなときは、できるだけ多くの時間を一人一人の子どもと、かかわらなければいけません。それなのに

子どもの距離は1m??
感染防止のため子どもを離し1mの距離がとれるようにと指示されました。事前に尋ねると、「40センチぐらいしか間隔は取れません。」とお手上げの様子。しかし、議会の答弁では、全ての教室で1・1mは取れました。」

子どもの人数別の学級数

	小学校	中学校
20人以下	59 (24.0%)	12 (10.5%)
21-25人	49 (19.9)	6 (5.3)
26-30人	70 (28.5)	26 (22.8)
31-35人	4 (16.7)	43 (37.7)
36-40人	27 (11.0)	27 (23.7)
合計	246 (100)	114 (100)

教員は、授業の遅れを取り戻せと言われて「てんでこ舞い」。それも一クラスの人数が多すぎるからです。



手洗いは30秒一日何回も
外から教室に戻ったとき、給食の前後、掃除のあと、石鹸で30秒の手洗い。トイレのあと、鼻をかんだ時必ず。それを教員は見届けなくてはなりません。40人の教室なら、手洗い場は「三密」そのものです。

教室の子どもの数は35人以下に

解決策はハッキリしていません。先生の数を増やして、一クラスの人数を減らすことです。そうすれば感染の可能性を抑えることも、一人ひとりの成長を保障することもできます。

すでに教員増を要求

教育委員会は国の第二次補正予算に盛り込まれた全国三千百人の教員増について、国の基準に従い、小学校4校、中学校4校で加配を求めています。

市も臨時教員の採用を

しかし市の増員要求が通っても、ほとんどの大規模な学級はそのままです。すでに、小1、小2、中1は、道教委の方針で、学級の定員は40人から35人に引き下げられています。村上議員は、36人以上の学級を解消するため、市独自に臨時教員を一定数採用するよう求めました。

GIGAスクールは賛成できません

子ども全員にタブレットパソコンを持たせて、勉強の形をガラリと変える。GIGAスクールの名前で全国で一斉に準備されています。大容量ネットワークの整備とタブレット購入で、9・5億円近い経費がかかり、国庫補助を除いて市の負担は4億円を超えます。GIGAスクール構想は、ネットの国際競争で、中国などに遅れを取っていることから、子どもたちを次の国際競争の戦力にしようという国を挙げて取り組んでいる戦略です。「個別最適化された教材」といって、パソコンメーカーが提供



する多様なコンテンツを、子ども一人ひとりに別々に、配信して授業や宿題にかえます。集団の学びや先生たちの教材研究そのものを否定する危険な中身をもっています。確かに感染流行に備えオンライン授業の準備をすることは大切ですが、それを逆手にとって、問題の多いGIGAスクール構想を進めることには反対です。